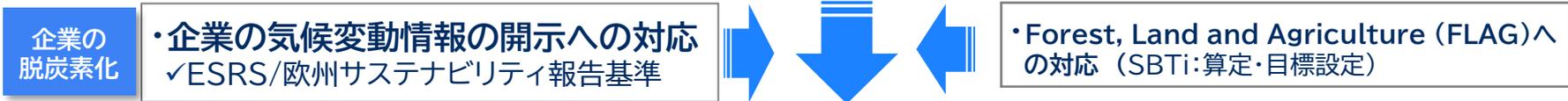


課題	需要家のスタンス	課題解決に向けた進展
<p>① 制度やルールが 発展途上で 黎明期</p>	<p>グリーンウォッシュ批判、品質への疑念(環境・社会へのマイナス影響、GHG削減効果)から 先行する取組を躊躇</p>	<ul style="list-style-type: none"> 品質に関する国際的なルール (ICVCMコアカーボン原則、CORSlA適格性要件) パリ協定でのルール(6条でのルールを議論中) カーボンニュートラリティーの国際規格 (ISO 14068の発行) GHGプロトコル(Land Sector and Removals Guidance) (2024年最終決定予定)
<p>② ミティゲーション・ ヒエラルキー上 クレジット活用は 最後の手段</p>	<p>関心を持ちつつも、 動きが遅く様子見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会のネットゼロ達成への貢献でのクレジット活用の位置づけ <ul style="list-style-type: none"> SBTiのBeyond Value Chain Mitigation VcMI Claims Code of Practice



- クレジット市場拡大を睨み、取引市場やルール整備の動きが活発化
- クレジットを含めた現実的なCN化の道筋の具体策が求められる段階に**
- クレジット市場の拡大は、新たなビジネス機会を生む(需要側:**Scope3での脱炭素化への活用、クレジットを活用した新たなサービス展開を模索し始めている**)

最近の動き

- ※EUでの動向
- 炭素除去の認証制度の導入に向けた動き
 - 欧州グリーンクレーム指令によるオフセット利用の透明化、情報提供の強化
 - EU炭素国境調整メカニズム(CBAM)

- ※米国での動向
- 「ボランティア・カーボン市場」のルール公表
 - カリフォルニア州:自主的炭素市場(VCM)開示の州法(AB1305)、他に気候変動開示関連の州法(SB253、SB261)を導入

問題提起

- ❑ クレジットを含めた現実的な脱炭素化の道筋の具体策が求められる段階に。**クレジットは脱炭素化の有効な手段の一つであり、新たなビジネス機会**を生む。同時に**新たな価値創造**(→企業・地域社会)につながる。
- ❑ クレジット市場の発展には、信頼性の確保が不可欠であり、**質の高いクレジットの組成・流通の仕組みづくりでの連携強化**が必要。また、**様々なイノベーション**が生まれる。
- ❑ クレジットの調達～活用まで、クレジット市場に関わるステークホルダーによる**クレジットのエコシステム構築と共創の取組が重要**。

脱炭素 アクセラレーション Lab

- ① ワークショップ開催
- ② プレ勉強会・意見交換 →共創機会の探索(目線合わせ/きっかけ作り)
- ③ イベントのカーボンオフセット化の試験実証
例)ICFセミナー等イベントのCO2の見える化とオフセット

第1回ワークショップ:2024年6月12日開催

～アーリー・ムーバーはなぜ今動くのか、新たな事業機会を探る～

第2回ワークショップ:2024年9月20日開催

本日のイベント

～質の高いカーボン・クレジット市場の創出に向けたイノベーションを考える～

第3回ワークショップ:2024年11月下旬(予定)

成果の取り纏め

- ・カーボンクレジットの課題認識
- ・課題解決のアプローチ、ビジネスモデル

個別アイデアの具体化での共創活動の具体化

- ・ ビジネスモデル構築
- ・ 具体化に向けた展開(例:社会実証)
- ・ 提言活動、情報発信 等

- ✓企業連携
- ✓自治体(CN宣言自治体等)・企業連携等



質の高いカーボン・クレジット市場の 創出に向けたイノベーションを考える ディスカッション・ポイント

1

苦勞した点/工夫点、取り組みを通じて
得られた学び、明らかになった問題点

2

今後の質の高いカーボン・クレジット市場を
育てていく上での課題認識、アイデア

Q&A